

水田の土壌改良推進

中央普及支援センター

中央普及支援センターでは、令和7年から土壌・肥料の専門家を1名配置し、農林総合事務所等からの土壌に関する相談に対応しています。

近年、県内の水田土壌では、pHが低く、リン酸やケイ酸が不足した圃場が散見されています。土壌のpHが低いと水稻の初期生育が抑制され、場合によっては枯死することがあります。さらに、リン酸不足は分げつ不良を招き、ケイ酸不足は植物体の軟弱化を引き起こし、病害虫への抵抗性も低下します。

こうした問題を改善するため、pH矯正には消石灰、生石灰、炭酸カルシウムや苦土石灰などの石灰質資材、リン酸補給には、ようりんや重焼リンなど、ケイ酸補給には、ケイカルや鉄鋼スラグなどが有効です。なお、ようりんやケイカル、鉄鋼スラグはアルカリ分を含むため、pH矯正効果も期待できます。

土づくりは栽培の基本です。土壌の健康状態をしっかりと把握し、生産性の高い米づくりを今後も推進していきます。

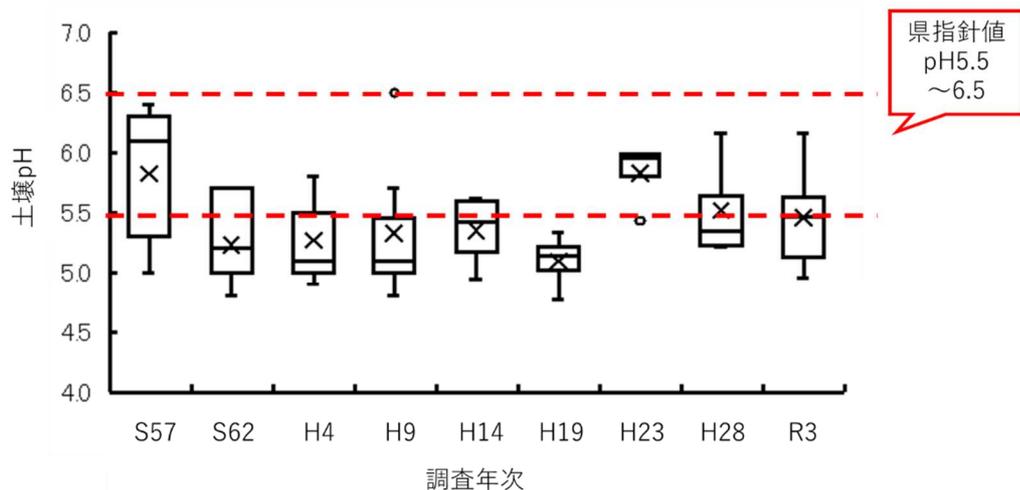


図 県内のA地区(5~9地点)の土壌pHの分布

問い合わせ先：農林総合研究センター農業試験場

中央普及支援センター（076-257-9150）